

令和2年度厚生労働行政推進調査事業

「急性期の入院患者に対する医療・看護の必要性と職員配置等の指標の導入に向けた研究」 への協力依頼について

令和2年度厚生労働行政推進調査事業において、「急性期の入院患者に対する医療・看護の必要性と職員配置等の指標の導入に向けた研究」が実施されるため、福岡県内の訪問看護ステーションに研究参加へのご協力をお願いしたく連絡しております。

研究の詳細は以下のとおりとなりますので、研究班からの調査票が各訪問看護ステーションに届いた際にご協力いただけるよう、文書等による会員への周知にご協力を賜れますと幸いです。

記

○研究課題名：

急性期の入院患者に対する医療・看護の必要性と職員配置等の指標の導入に向けた研究

○研究代表者：

産業医科大学 医学部 教授 松田晋哉

○研究目的・方法：

急性期の入院医療に係る指標（現行では「重症度、医療・看護必要度」）について、新たな評価体系の検討を行うために、中・長期的な入院に係る患者の日々の活動状態や、実施された医療行為を含めた患者像の把握を行う。

医療機能に応じて連続的に変化する患者像を把握するために、福岡県内の医療機関（急性期、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション、療養等）、介護施設（介護老人保健施設、老人福祉施設等）、在宅（訪問診療、訪問看護）を対象に、患者像に関するデータ収集を行う。

医療機関については、重症度、医療・看護必要度に係るデータを、DPC データや調査票により収集する。介護施設や在宅については、疾患、ADL、介護認定、ケア内容等についてのデータを、調査票により収集する。

○スケジュール（予定）：

令和2年10月 依頼状送付

令和2年11月 各訪問看護ステーションへ調査票送付

令和2年12月1日～7日 データ収集期間（～12月15日 回答締切）

以上